行動計量学会報

日本行動計量学会事務局
〒 106-8569
東京都港区南麻布 4-6-7
統計数理研究所 村上研究室
Tel & Fax 03-5421-8766

実践としての行動計量学

吉村宰

最近、行動計量的手法に関してユーザーとメーカーという分け方をよく聞きます。そして、ユーザー側の手法に対する理解不足、不勉強が問題として指摘されることが多いようです。私自身について言えば、「潜在特性モデル」や「行動計量」という言葉に惹かれ、その中身をもう少し知りたいなあ、とは思うものの手法の開発には力不足が過ぎる、という感じのユーザーです。

ユーザーの手法に関する理解不足、勉強不足は全くもってその通りであると思いますし、異論はありません。その上で、自分自身の経験を振り返って、ユーザー側から言うとするならば、多くのユーザーにとって、手法をきちんと理解するには（例えばメーカー側の言語が分かるようになるレベルまで）時間がかかりすぎるのです。仮に１年かかるとすると、これは当初の問題設定そのものが陳腐化するに十分な時間といえるでしょう。ユーザーはそのようなリスクを冒すより、いくら手法の誤用を指摘されようが、「赤信号みんなで渡れば恐くない」方式で当該領域の研究で直ちに得られる成果を手にする方を選ぶでしょう（それが手法の誤用の産物であるとしても）。

そもそも、なぜメーカー側はユーザーによる手法に対する不勉強や理解不足を指摘したり批判したりするのでしょうか。よくよく考えてみると不思議です。動機がよく分からないのです。例えば、ある領域の心理学研究で手法の誤用があり、その誤用に基づく結果が新しい知見として報告されたとします。もしそうした手法の誤用による知見の蓄積が当該研究領域にとって望ましいものでないと考え、それを正さなければならないという思いが動機であるならば、その手法を正しく適用したその領域の研究を行い、先の研究の結果は手法の誤用に基づくものであることを示していくのが自然だと思います。しかし、そのようなことが手法の誤用の指摘ほど多く行われているようには見えません。いくら的確な指摘であっても、同じ土俵に上がらなければ、相手にとっては大きなお世話、単なる野次と受け取られるのではないでしょうか（ユーザー側のそのような声を耳にしたことがある方も多いと思います）。

ユーザーとメーカーという区別は危ないのではないかと感じています。教員養成系教育学部と同じ轍を踏むのではないかと思えるからです。メーカーがユーザーの非をいくら指摘しても、メーカーの言い分が正しくても、需要がなければメーカーはつぶれる。メーカーである教育学や教育心理学、教科教育学、教育内容学等の研究者は長らく、ユーザーの非を指摘し、「正しくは」こうあるべきだ、と主張することに専念してきました。しかし、現場で起こる問題を解決してこなかった、と判断されました。その結果何が起こったかは皆さんがご存じの通りです。行動計量学には、教員養成系教育学部のように、現場の問題を解決することが求められるという性質があると考えます。従ってその理論を用いた「実践」を多く行い有用性をどんどんアピールしなければ、やがては行動計量学会もその魅力を失い、ユーザーからそっぽを向かれてしまうことになるかも知れません。

現場には行動計量学的な問題がたくさんあります。メーカーにとっても宝の山であることは間違いないでしょう。例えば、私に身近な事で言えば、学習指導要領の改訂にともなって指導要録も変更され、教育評価のあり方が大きく変わりました。評価すべき学力が多岐に渡っています。絶対評価も導入されました。評価基準を整備したとしても、さてどうやって評価すればいいのか、さらには総合的な学習というものもあります。現場は大混乱です。メーカーの皆さん、現場に降りてきて一緒に問題を解決しませんか？

最後に：巻頭言の依頼があった時は本当に驚きました。直ちにお断りしようかとも思いましたが、ベテランと若手が交互に書くという方針の趣旨、また広報担当の方々のご苦労等を思うと、ある種の義務感のようなものも生じ、無謀を承知で引き受けさせて頂くことにしました。至らぬ点多々あると思いますが、この依頼を引き受けた「勇気」に免じてご容赦下さい。

（よしむらおさむ，岡山大学教育学部）

平成 13 年度第 3 回理事会議事録

日時：平成 13 年 9 月 14 日　17:45 － 19:00
場所：甲子園大学
出席者：飽戸 弘、岩坪秀一、江川 清、大隈 昇、岡太彬訓、狩野 裕、上笹 恒、菊地賢一、齋藤堯幸、杉山明子、垂水共之、林 文、馬場康維、村上征勝、柳原良造、山岡和枝、吉野諒三

１．行動計量学会総会について

事務局より第２９回大会の総会次第案の説明があり、承認された。

２．第２９回大会（平成１３年度）について

木下大会実行委員長より、大会前日のチュートリアルセミナー及び大会初日の状況に関し、以下のような報告があった。
・チュートリアルセミナーの講師の西里静彦会員がアメリカのテロ事件により来日出来なくなったため「双対尺度法解説」のセミナーを中止した。
・初日に予定していた林知己夫会員の基調講演「行動計量学とデータの科学」が林会員の急病のため中止となった。その代わりにユーザーとメーカーの公開相談会の延長戦を岩坪会員の司会のもとに行い、好評を得た。

３．第３０回大会（平成１４年度）について

岩坪大会担当理事より、日本女子大学で第３０回大会の開催の可能性を検討していただくことになったとの報告があった。

４．各種委員会報告

・狩野欧文誌委員長より、和文誌・欧文誌合同の編集委員会で、二重投稿について、他誌に同時投稿の論文の扱い、及び過去に発表した報告書等の扱いをどうするか等について明確な規定がないので早急に検討することになったとの報告があった。
・林和文誌委員長より、第２８巻１号は論文２編で刊行する。第２８巻２号は特集号の予定、との報告があった。
・狩野欧文誌委員長より、２００１年７月号の編集が遅れているが今年中には出版したい、またスペシャルイシューのあり方、若手が投稿できるようなセッションを作ったらどうか、大会で英文セッションを作り、それを投稿論文に結びつけるようにしたらどうか等が委員会で検討されたとの報告があった。
・山岡運営委員長より、１４日のチュートリアルセミナー（申し込者２１名）は、講師が米国でのテロ事件の影響で来日出来なくなったため中止となった。もう一つのチュートリアルセミナーの参加者は４３名だった。7月１３日にシンポジウムを開催した。今後の予定は１０月２０日、１１月１５日、２月頃にシンポジウムを、3月に合宿セミナーを計画している。
・菊地広報担当理事より、ホームページの役員名簿、会則等の更新を早急に行うとの報告があった。
・上笹名誉会員担当理事より、名誉会員の推薦規定についての案が提示された。これに関し議論をした結果をふまえ、次回理事会に内規案を提案してもらうことになった。
・岡太組織検討委員長より、分科会のあり方、会員の種類等について検討中であるとの報告があった。

５．その他

吉野理事より、社会学会から社会調査士を認定する機関の設立に関する検討委員会を行動計量学会に設けて欲しい旨の非公式の依頼があったとの報告があった。これに関しては、今後吉野理事と馬場理事が窓口となって対応することが決まった。

第３０回日本行動計量学会大会

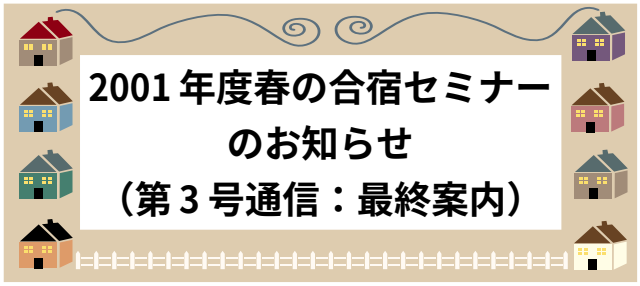
この度、第 30 回大会は多摩大学が引き受けて次の日程・場所で開催することになりました。多摩大学は東京西部の多摩市にありますが、特に、２１日（土曜日）は多摩大学が標榜していますオープン・ナレッジを具体化する意味も含めて多摩大学の研究センターでありますルネッサンスセンター（渋谷マークシティ West 17F）に会場を移して実施します。

ただいま、共通テーマの提案を受け付けております。詳細は第１号通信でお知らせ致します。

開催期日と会場

期日：
2002年9月19日（木），20日（金），21日（土）
会場：
多摩大学（多摩市聖ヶ丘） 19 日，20 日
ルネッサンスセンター（渋谷マークシティ West 17F） 21 日

第１号通信：平成１４年３月頃
講演申込締切：平成１４年６月下旬頃
事前参加申込締切：平成１４年７月頃
予稿集原稿締切：平成１４年７月頃
ホームページ http://stat.tama.ac.jp/bsj2002/



2001 年度春の合宿セミナーのお知らせ（第 3 号通信：最終案内）

成蹊大学工学部　岩崎　学

会報第 91 号（2001 年 12 月 1 日発行）で既報のように、第 5 回日本行動計量学会・春の合宿セミナーを下記の要領で開催します。まだ参加枠に余裕がありますので、是非お早めに申し込んで下さい。各小グループの討議内容などの詳細は、前記会報あるいは学会ホームページ（http://wwwsoc.nii.ac.jp/bsj/seminar.html）をご覧下さい。

記

日　時：2002 年 3 月 21 日（木、祝日）13:30 ～
　3 月 22 日（金）17:00（1 泊 2 日）
会　場：安田生命アカデミア
　（東京都府中市日鋼町 1-40）
　JR 武蔵野線北府中駅より徒歩 10 分、京王線府中駅より徒歩 20 分
参加費：当日ご持参下さい。
　1 泊 2 日 3 食（1 日目の夕食、2 日目の朝食、昼食）：
　　会員：15,000 円、非会員：20,000 円、学生：12,000 円
　宿泊なし・2 日目の昼食：
　　会員：8,000 円、非会員：12,000 円、学生：5,000 円
テーマ：「交流」しましょう
定　員：宿泊人数制限 50 名（宿泊なしも可）
申込方法：次の情報と共に岩崎まで郵送、FAX、E-mail でお申し込み下さい（電話不可）。氏名、所属（住所、電話番号、E-mail）、会員・非会員・学生（含：大学院生）の別、宿泊の有無、小グループの希望（グループリーダー名あるいはキーワードにより第 1、第 2、第 3 希望まで）
申込締切：宿泊は定員になり次第締切
申込先：
　〒 180-8633 東京都武蔵野市吉祥寺北町 3-3-1
　成蹊大学工学部　経営・情報工学科
　岩崎　学
　FAX: 0422-37-3871
　E-mail: iwasaki@is.seikei.ac.jp

小グループリーダーとキーワード

繁桝算男（東京大）：因果関係
村上　隆（名古屋大）：尺度構成
岡太彬訓（立教大）：MDS
狩野　裕（大阪大）：反復測定
岩崎　学（成蹊大）：処置前後

運営委員会から

今年度の運営委員会の行事としては、別記のように、第 72 回行動計量シンポジウム「行動計量学からの政策提言」を 3 月 20 日に、これに引き続き、第 5 回春の合宿セミナーを 2002 年 3 月 21 日から 1 泊 2 日で安田生命アカデミア（東京都府中市）にて開催します。地方からご参加の方に引き続いてご参加いただけるように、連日にしてみました。どうぞ、ふるってご参加ください。

また、次年度の予定としては次の 2 つのシンポジウムを 5 月、6 月に開催する予定です。このシンポジウムは、2001 年大会で中止となった林知己夫会員による「データの科学」をテーマとした特別講演のやり直しとして発案し、それを拡大した内容です。共に、朝倉書店から刊行中の「データの科学」シリーズの著者を中心に講演を依頼しております。詳細は WEB ページに掲載しますので、ふるってご参加ください。

第 73 回シンポジウム：データの科学と調査法

日　時：2002 年 5 月 11 日（土曜日）13:30―17:20
場　所：統計数理研究所講堂
参加費：無料
司　会：岩坪秀一（大学入試センター）
演　者：
　林　知己夫（統計数理研究所）
　　データの科学（仮題）
　林　文（東洋英和女学院大学）
　　社会調査とデータの科学（仮題）
　吉野諒三（統計数理研究所）
　　国際比較調査の方法論：個と集団の意識の科学（仮題）
指定討論者：
　木下冨雄（甲子園大学）
　丸山久美子（聖学院大学）

第 74 回シンポジウム：データの科学と調査法（その２）

日　時：2002 年６月１日（土曜日）13:30―17:20
場　所：統計数理研究所講堂
参加費：無料
司　会：山岡和枝（帝京大学）
講演者：
　羽生和紀（日本大学）
　　紙リサイクル社会の調査（仮題）
　岸野洋久（東京大学）
　　調査デザイン：メタ・サーベイデザインの理論と応用（仮題）
　鈴木達三（統計数理研究所）
　　調査のあり方（仮題）
指定討論者：林　知己夫、他（未定）

企画運営：山岡・前田運営委員

第７２回行動計量シンポジウム
行動計量学からの政策提言

日時：２００２年3月２０日（水）
　午後２時から４時３０分
場所:東洋英和女学院大学六本木校舎３０１教室
話題提供者：
　卜部　敬康　　（龍谷大学）
　清水　裕　　（昭和女子大学）
　永田　尚三　　（武蔵野女子大学）
指定討論者：
　林　知己夫
趣旨：
　行動計量学を単なる統計手法としてでなく人間社会を構築する提言のために活用することを考える。

関連学会等カレンダー

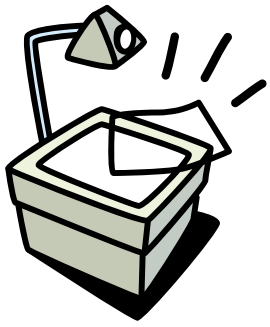
※注意：本コーナーの情報は、幅広い専門分野にわたる会員の皆さまに、なるべく多くの催し物の存在をお知らせするために編集担当側で収集・要約したものです。プログラムや参加方法については、必ず各催事末尾に掲載の「照会先」にご確認下さい。照会先は会場となる機関とは別の場合も多いのでご注意下さい。

＜学会大会等＞

☆ 第 9 回社会言語科学会研究大会
会　期：2002 年 3 月 2 日（土），3 日（日）
会　場：千葉大学西千葉キャンパス
（千葉市稲毛区弥生町 1-33）
照会先：社会言語科学会研究大会委員会
E-mail: jasstaik@kc4.so-net.ne.jp
または
社会言語科学会研究大会委員長　片桐恭弘
国際電気通信基礎技術研究所
〒 619-0288 京都府相楽郡精華町光台 2-2-2
Tel: 0774-95-1182, Fax: 0774-95-1178
E-mail: katagiri@atr.co.jp
URL: http://www01.u-page.so-net.ne.jp/ra2/jnagase/

☆ 第 33 回数理社会学会大会
会　期：2002 年 3 月 16 日（土），17 日（日）
会　場：東京工業大学
照会先：大会事務局
〒 152-8552 東京都目黒区大岡山 2-12-1
東京工業大学大学院社会理工学研究科
土場研究室内
Tel & Fax: 03-5734-3192
E-mail: stam@soc.titech.ac.jp
URL: http://wwwsoc.nii.ac.jp/jams/

☆ 第 24 回日本ＰＯＳ医療学会大会
会　期：2002 年 3 月 23 日（土），24 日（日）
会　場：川崎医療福祉大学　大会議室・アリーナ
照会先：第 24 回日本 POS 医療学会大会事務局
〒 701-0193　倉敷市松島 288
川崎医療福祉大学　8207 実験室
Fax: 086-464-5207
E-mail: jpos-24@mw.kawasaki-m.ac.jp



☆ 日本オペレーションズ・リサーチ学会 平成 14 年度春季研究発表会

会　期：2002 年 3 月 27 日（水），28 日（木）
会　場：富山国際会議場　大手町フォーラム
（富山県富山市大手町 1 番 2 号）
特別テーマ：「地方分権と OR」
内容：(セッションタイトルより抜粋)サポートベクタマシン，AHP，多変量，生活・行政・福祉・政策，企業事例，輸送・交通・資源，データマイニング，マーケティング，ゲーム理論他
照会先：富山県立大学 工学部 電子情報工学科　高木 昇
〒 939-0398　富山県射水郡小杉町黒河 5180
Tel: 0766-56-7500（内線 461）, Fax: 0766-56-8022
E-mail: or2002@pu-toyama.ac.jp
URL: http://www.kanazawa-gu.ac.jp/~kuwano/or2002spring/conference.html

☆ 日本発達心理学会第 13 回研究報告会

会　期：2002 年 3 月 27 日（水）～ 29 日（金）
会　場：早稲田大学所沢キャンパス
（埼玉県所沢市三ヶ島）
照会先：大会準備委員会事務局
〒 359-1192　埼玉県所沢市三ケ島 2-579-15
早稲田大学人間科学部　青柳研究室内
URL: http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsdp/

☆ 日本計算機統計学会第 16 回大会

会　期：2002 年 5 月 17 日（金），18 日（土）
会　場：高知大学 メディアの森 メディアホール
（高知市曙町 2-5-1，Tel: 088-844-0111）
内　容：特別講演 坂田年男（九州芸術工科大学）「MCMC：数学と計算機の連携」（仮題），三輪哲久（農業環境技術研究所）「順序制約に関連した多変量正規分布の確率計算」，他一般講演
照会先：日本計算機統計学会第 16 回大会事務局
〒 780-8520 高知市曙町 2-5-1
高知大学理学部数理情報科学科内
Tel: 088-844-8275, Fax: 088-844-8355
E-mail: jscs16@math.kochi-u.ac.jp
http://www.math.kochi-u.ac.jp/jscs16/

☆ 2002 年度日本計量生物学会シンポジウム

会　期：2002 年 5 月 24 日（金）
会　場：京都府民総合交流プラザ「京都テルサ」
（京都市南区東九条下殿田町70(新町通九条下ル)）
テーマ：医学・生物学的リスクの評価
内　容：特別講演　長山淳哉（九州大学医療技術短期大学部)「ダイオキシンと環境ホルモン：胎児と乳児への影響」，長島　實（協和発酵工業（株))「環境リスク・コミュニケーション」，他一般講演
午前中はチュートリアル，オーガナイザー：丹後俊郎（国立公衆衛生院），テーマ「メタ・アナリシスーエビデンスの統合をめざす統計手法」
照会先：日本計量生物学会　事務局
〒 107-0062 東京都港区南青山 6-3-9 大和ビル 2F
（財）統計情報研究開発センター内
E-mail: biometrics@sinfonica.or.jp
Fax: 03-5467-0484
URL: http://wwwsoc.nii.ac.jp/jbs/

☆ 応用統計学会第 24 回シンポジウム

会　期：2002 年 5 月 25 日（土）
会　場：京都府民総合交流プラザ「京都テルサ」
（京都市南区東九条下殿田町70(新町通九条下ル)）
テーマ：多変量解析の新展開
内　容：特別講演　甘利俊一（理研)「独立成分解析－その手法と考え方」，江口真透（統数研)「統計的識別の方法について－ロジスティック判別からアダブーストまで」，他一般講演
前日にチュートリアル有り（日本計量生物学会シンポジウムの項参照）
照会先：応用統計学会　事務局
〒 107-0062 東京都港区南青山 6-3-9 大和ビル 2F
（財）統計情報研究開発センター内
E-mail: applstat@sinfonica.or.jp
Fax: 03-5467-0484
URL: http://www.applstat.gr.jp/

☆ 日本保健医療行動科学会第 17 回大会

会　期：2002 年 6 月 8 日（土），9 日（日）
会　場：北海道大学学術交流会館
（札幌市北区北 8 条西 5 丁目 北大構内）
テーマ：全人的医療と行動変容
内　容：基調講演　久村正也（大会長・北海道医療大学)「行動変容と心身医学的医療」, 特別講演　佐々木大輔（弘前大学保健管理センター)「大学生のメンタルヘルスの現状と対策」, シンポジウム「日常生活における不健康行動の修正」，他一般演題
照会先：第17回日本保健医療行動科学会大会（札幌大会）事務局
〒 061-0293 北海道石狩郡当別町金沢 1757
北海道医療大学看護福祉学部 佐々木研究室気付
Tel: 01332-3-1211（内線 3640）, Fax: 01332-3-1852
E-mail: sasakish@hoku-iryo-u.ac.jp
URL: http://homepage1.nifty.com/jahbs/

＜シンポジウム・講演会等＞

☆ 研究会「エビデンスの質の高さと社会における利用」

日　時：2002 年 3 月 8 日（金）13:30 ～
会　場：統計数理研究所・講堂
（東京都港区南麻布 4-6-7）
企　画：柳本武美（統計数理研究所）
内　容：第一部　総論（社会学・哲学から）　1）平川秀幸（京都女子大学）「「予防的アプローチ」のリスク論：社会学的な観点から」，2）吉川 肇子（慶應義塾大学）「リスク・コミュニケーションとはどのような考え方か」 第二部　各論(医療分野から）　1）津田 敏秀（岡山大学)「医学における因果関係とその利用」，2）津谷 喜一郎（東京大学)「伝えたいことと知りたいこと－ TCAM の場合－」，3）林 邦彦（群馬大学)「大規模女性コホート研究の目的とデザイン」
照会先：土田（E-mail: tsuchida@ism.ac.jp）
URL: http://www.ism.ac.jp/~yanagmt/kenkyukai.html

☆ **第 12 回ソフトサイエンス・ワークショップ**

日　時：2002 年 3 月 9 日（土），10 日（日）
会　場：高知工科大学工学部
（高知県香美郡土佐山田町宮ノ口 185 番地）
共　催：日本ファジィ学会ソフトサイエンス研究会，日本ファジィ学会中国四国支部
内　容：特別講演：岡村甫（高知工科大学学長）「大学教員評価システム－工科大の試み－」，招待講演：竹田史章（高知工科大学）「インテリジェントパターン認識システムの研究とその産業化－貨幣識別，筆圧による個人認証，EMG による動作認識，流下米の監査－」，他一般講演（分野：計測，調査，データ解析，モデリング，評価，決定，データベース，情報検索，決定支援，ヒューマンインタフェース，心理，教育，社会，経済，歴史，文学，言語，経営，管理，会計，医学，建築，デザイン，芸術，数学，哲学，理学，農業，地球科学，環境，その他）
照会先：〒 923-1292　石川県能美郡辰口町旭台 1-1
北陸先端科学技術大学院大学 知識科学研究科
中森義輝
Tel: 0761-51-1755, Fax: 0761-51-1149
E-mail: nakamori@jaist.ac.jp
URL: http://www.jaist.ac.jp/ks/labs/nakamori/softscience2002/

☆ **人工知能学会第 17 回ＡＩシンポジウム（SIG-J）**

日　時：2002 年 3 月 14 日（木），15 日（金）
会　場：学術総合センター　一橋記念講堂
（東京都千代田区一ツ橋 2-1-2）
テーマ：マーケティングのデータマイニングチャレンジ
内　容：両日とも，＜業務適用の実際と課題＞，＜技術開発の動向と展望＞に関する講演，および＜パネル：マーケティングのデータマイニングチャレンジ＞により構成
初日にデータマイニングツールベンダー各社のデモ展示会を併設
照会先：（社）人工知能学会事務局
〒 162- 0821 新宿区津久戸町 4-7　OS ビル 402 号室
E-mail: account@ai-gakkai.or.jp
Tel: 03-5261-3401, Fax: 03-5261-3402
URL: http://www.ai-gakkai.or.jp/jsai/AI-sympo17.html

☆ **第 44 回 QOL 研究会**

日　時：2002 年 4 月 20 日（土）
会　場：大阪府立看護大学
（大阪府羽曳野市はびきの 3-7-30）
内　容：講演　小島操子（大阪府立看護大学長）
照会先：Quality of Life（QOL）研究会
国立循環器病センター 萬代 隆
Tel: 06-6833-5012, Fax: 06-6872-7486
http://www.nona.dti.ne.jp/~qolmanda/

公募・求人情報

本コーナーでは計量的手法や統計学と関係が深いと思われる公募を中心に紹介します。

なお、従来から参照していた国立情報学研究所の「研究者公募情報提供事業」（NACSIS-CIS）は、2001 年 10 月 1 日から、科学技術振興事業団（JST；http://www.jst.go.jp/ を参照）が運用する「研究者人材データベースシステム（JRECIN）」に移管されました。URL は下記の通りです。ご活用をお勧めします。

http://jrecin.jst.go.jp/

JRECINのキーワード検索でヒットした公募等の件数（11 月上旬の数字）は、「行動」で 11 件、「計量」で 3 件、「測定」で 6 件、「統計」で 4 件、「数理」で 12 件、「社会学」で 5 件、「社会調査」で 0 件、「心理学」で 11 件、「認知」で 8 件、「マーケティング」で 3 件、「看護学」で 44 件、「保健学」で 12 件、「公衆衛生」で 5 件、などでした。

以下の公募は、応募期限の早い順に並んでいます。応募資格等、公募情報の詳細については、公募元にご確認下さい。

ただし、以下には上記JRECINに含まれていない公募情報も掲載されている場合があります。

☆ **島根大学法文学部**

公募人員：講師または助教授 1 名
所属：社会システム学科行動社会講座　心理学
専門分野：認知心理学
心理学全般に対して幅広い関心を有し、実験・調査・観察などの心理学的リサーチを指導できる方。
着任時期：2002 年 10 月 1 日
応募期限：2002 年 3 月 15 日
照会先：島根大学法文学部行動社会講座心理学研究室
村瀬 俊樹
〒 690-8504 松江市西川津町 1060
Tel: 0852-32-6173
E-mail: t-murase@soc.shimane-u.ac.jp

☆ **早稲田大学教育学部**

公募人員：教授または助教授または講師 1 名
所属：教育心理学
専門分野：教授心理学または学校心理学
着任時期：2003 年 4 月 1 日
応募期限：2002 年 3 月 16 日
照会先：早稲田大学教育学部 椎名 乾平
〒 169-8050　新宿区西早稲田 1-6-1
E-mail: shiina@mn.waseda.ac.jp

☆ 愛知教育大学

公募人員：助手 1 名
所属：学校教育講座
専門分野：社会性・道徳性の発達心理学
担当予定科目:「道徳教育の研究」などの教職に関する科目及び「発達心理学講義・演習」,「心理学実験」等の専攻科目，共通科目
着任時期：2002 年 10 月 1 日
応募期限：2002 年 3 月 20 日
照会先：愛知教育大学総務部人事課人事係
〒 446-8542 愛知県刈谷市井ヶ谷町広沢 1
Tel: 0566-26-2124, Fax: 0566-26-2120
URL: http://www.aichi-edu.ac.jp/jinji/jin8-2.htm

☆ 岐阜大学工学部

公募人員：助教授 1 名
所属：数理デザイン工学科（平成 14 年 4 月開設予定）
専門分野：確率論，組み合わせ数理，離散数理
担当科目：数学一般，確率･統計，数理計画等
着任時期：2002 年 10 月 1 日
応募期限：2002 年 3 月 31 日
照会先：岐阜大学工学部　渡邉 敏弘
〒 501-1193 岐阜市柳戸 1-1
Tel: 058-293-2803
E-mail: wata@cc.gifu-u.ac.jp
新学科の詳細は岐阜大学ホームページから工学部のページ参照のこと。http://www.gifu-u.ac.jp/

☆ 九州ルーテル学院大学人文学部

公募人員：教授 1 名
所属：人文学部人文学科
専門分野：発達心理学又は教育心理学（臨床心理関連科目も担当できる者が望ましい。）
着任時期：2002 年 10 月 1 日
応募期限：2002 年 3 月 31 日
照会先：人文学部人文学科　発達・心理コース
コース主任　一門恵子教授
〒 860-8520 熊本市黒髪 3 丁目 12 番 16 号
Tel: 096-343-2413（直通）, 096-343-1600（代表）
Fax: 096-343-0354
E-mail: klc-koho@fsinet.or.jp（担当 本島 勇）

☆ 札幌医科大学保健医療学部

公募人員：助教授又は講師 1 名
所属：看護学科
担当領域：公衆衛生学又は保健学（公衆衛生学，保健学系教科目（環境保健論，疫学，保健医療システム）及び大学院保健医療学研究科目を担当できること）
着任時期：2002 年 10 月 1 日
応募期限：2002 年 4 月 1 日
照会先：事務局総務課人事係（担当　松浦）
〒 060-8556 札幌市中央区南 1 条西 17 丁目
Tel: 011-611-2111, Fax: 011-612-5861
E-mail: hirokom@sapmed.ac.jp

☆ 筑波大学

公募人員：講師 1 名
所属：社会工学系
専門分野：マーケティング
着任時期：2002 年 11 月 1 日
応募期限：2002 年 4 月 12 日
照会先：社会工学系 教授　松尾博文
〒 305-8573 茨城県つくば市天王台 1 － 1 － 1
Tel: 0298-53-5378, Fax: 0298-53-5378
E-mail matsuoh@shako.sk.tsukuba.ac.jp

☆ 獨協医科大学（再公募）

公募人員：教授 1 名（講座主任教授）
所属：公衆衛生学講座
着任時期：2002 年 8 月 1 日
応募期限：2002 年 4 月 15 日
照会先 : 獨協医科大学事務局総務課 担当 : 板子，関口
〒 321-0293 栃木県下都賀郡壬生町
大字北小林 880 番地
Tel: 0282-87-2100

☆ 鳥取大学工学部

公募人員：教授又は助教授 1 名
所属：知能情報工学科　知識工学講座
専門分野：情報工学
担当科目：知識工学，パターン情報処理，シミュレーションエ学，数値計算法，確率論統計学など
着任時期：決定次第なるべく早い時期
応募期限：2002 年 4 月 26 日
照会先：工学部　知能情報工学科 学科長　山本 祥弘
〒 680-8552 鳥取市湖山町南 4-101
Tel: 0857-31-5624, Fax: 0857-31-0879
E-mail: yamamoto@ike.tottori-u.ac.jp

☆ 徳島大学総合科学部

公募人員：教授又は助教授 1 名
所属：人間社会学科・行動科学大講座
専門分野：発達心理学
着任時期：2003 年 4 月 1 日
応募期限：2002 年 4 月 30 日
照会先：総務部人事課第一任用係
〒 770-8502 徳島市南常三島町 1-1
Tel: 088-656-8601, Fax: 088-656-7019
E-mail: jnniny1k@jim.tokushima-u.ac.jp

日本行動計量学会 Web ページ
http://wwwsoc.nii.ac.jp/bsj/index.html

日本行動計量学会 第 30 回大会
http://stat.tama.ac.jp/bsj2002/

会員の著書等

☆ 青柳　領「Excel によるスポーツ統計学」九州大学出版会，2001 年.
☆ 堀　洋道（監修）「心理測定尺度集 1 人間の内面を探る〈自己・個人内過程〉」「同 2 人間と社会のつながりをとらえる〈対人関係・価値観〉」「同 3 心の健康をはかる〈適応・臨床〉」サイエンス社，2001 年.
☆ 鹿又伸夫・野宮大志郎・長谷川計二（編）「質的比較分析」ミネルヴァ書房，2001 年.
☆ 守　一雄・都築誉史・楠見　孝（編）「コネクショニストモデルと心理学」北大路書房，2001 年.
☆ 森　敏明（編著）・21 世紀の認知心理学を創る会（著）「認知心理学を語る 1 おもしろ記憶のラボラトリー」「同 2 おもしろ言語のラボラトリー」「同 3 おもしろ思考のラボラトリー」（シリーズ全 3 巻）北大路書房，2001 年.
☆ 大村彰道（監修）・秋田喜代美・久野雅樹（編）「文章理解の心理学～認知, 発達, 教育の広がりの中で～」北大路書房，2001 年.
☆ 山本眞理子・外山みどり・池上知子・遠藤由美・北村英哉・宮本聡介（編）「社会的認知ハンドブック」北大路書房，2001 年.
☆ 安田　雪「実践ネットワーク分析～関係を解く理論と技法」新曜社，2001 年.
☆ John M. Chambers（著）／垂水共之・越智義道・水田正弘・森　裕一・山本義郎（訳）「データによるプログラミング～データ解析言語 S における新しいプログラミング～」森北出版，2002 年.
☆ Wolfgang Hardle 他（著）／垂水共之（監訳）・森　裕一・山本義郎・中野純司・宿久　洋（訳）「統計解析環境 XploRe―ラーニングガイド」共立出版，2001 年.

入会手続き

学会では新入会員を広く募っています。詳しくは、下記までお問い合わせください。

〒 113-8622 東京都文京区本駒込 5-16-9
学会センター C-21
（財）日本学会事務センター内
日本行動計量学会係
TEL：03-5814-5810
FAX：03-5814-5825

日本行動計量学会会員数

（2002 年 1 月 9 日現在）

正会員	1033 名
準会員	84 名
名誉会員	6 名
賛助会員	18 社

学会誌論文投稿先

学会で発表された研究などを、できるだけ論文として投稿してください。お待ちしております。

和文誌「行動計量学」

〒 226-0015 横浜市緑区三保町 32
東洋英和女学院大学　人間科学部
林　文
TEL: 045-922-5511（代表）
045-922-7264（研究室直通）
FAX: 045-922-6642（共用）
e-mail: fumih@toyoeiwa.ac.jp

欧文誌「Behaviormetrika」

〒 565-0871 吹田市山田丘 1-2
大阪大学人間科学部
日本行動計量学会欧文誌編集委員長
狩野　裕

編集後記

皆様、まもなく恒例の春の合宿セミナーが開催されます。今年度も、特に、若手の研究者の皆様のご参加をお待ちしております。もし、周りの非会員の方で、興味がお有りの方がいらっしゃいましたら、お誘いもお忘れなく。また、次回の大会の案内も掲載いたしました。こちらの方へも、ぜひ参加をご検討ください。

今号を作成するにあたり、会員の方々から、いろいろな情報をいただきました。会員の方が出版された著書や、関連学会の大会、シンポジウムの案内など、会報に掲載すべき記事がございましたら、ぜひとも情報をお寄せください。

会報原稿送付先

皆様からの情報をお待ちしております。

〒 153-8501 東京都目黒区駒場 2-19-23
大学入試センター研究開発部
菊地賢一 kikuchi@rd.dnc.ac.jp
TEL：03-5478-1273
FAX：03-5478-1297

題字：林知己夫
会報作成担当：菊地賢一・前田忠彦・西山悦子